

に 100 mL とし、試料溶液とする。試料溶液及び塩化ナトリウム溶液 (29 → 500) につき、25 ± 0.02 °C で粘度測定法により試験を行うとき、極限粘度は 0.030 ~ 0.040 である。

貯 法 容 器 気密容器。

デキストラン硫酸ナトリウム イオウ 18

Dextran Sulfate Sodium Sulfur 18

デキストラン硫酸エステルナトリウム イオウ 18

本品は *Leuconostoc mesenteroides* van Tieghem (*Lactobacillaceae*) によるショ糖の発酵によって生産されたデキストランの部分分解物を硫酸化して得た硫酸エステルのナトリウム塩である。

性 状 本品は白色～淡黄白色の粉末で、においはなく、塩味がある。

本品は水に溶けやすく、エタノール又はジエチルエーテルにほとんど溶けない。

本品は吸湿性である。

確認試験

(1) 本品の水溶液 (3 → 50) 0.05 mL をトルイジンブルー溶液 (1 → 100000) 10 mL に滴加するとき、液の色は青色から赤紫色に変わる。

(2) 本品の水溶液 (1 → 1500) 1 mL にアントロン試液 2 mL を加えるとき、液は青緑色を呈し、徐々に暗青緑色に変わる。更に薄めた硫酸 (1 → 2) 1 mL 又は酢酸 (100) 1 mL を加えても液の色は変化しない。

(3) 本品の水溶液 (1 → 100) はナトリウム塩の定性反応 (1) を呈する。

旋 光 度 $[\alpha]_D^{20} : +90.0 \sim +110.0^\circ$ (乾燥物に換算したものの 1.5 g, 水, 25 mL, 100 mm).

pH 本品 1.0 g を水 20 mL に溶かした液の pH は 5.5 ~ 7.5 である。

純度試験

(1) 塩化物 本品 0.10 g をとり、試験を行う。比較液には 0.01 mol/L 塩酸 0.30 mL を加える (0.106 % 以下)。

(2) 硫酸塩 本品 0.10 g を水 6 mL に溶かし、塩化バリウム試液 0.6 mL を加え、水浴中で 4 分間加熱する。冷後、希塩酸 1 mL 及び水を加えて 50 mL とし、10 分間放置した後、観察するとき、比較液の呈する混濁より濃くない。比較液は 0.005 mol/L 硫酸 1.0 mL に水 6 mL を加え、以下同様に操作して製する (0.480 % 以下)。

(3) 重金属 本品 1.0 g をとり、第 2 法により操作し、試験を行う。比較液には鉛標準液 2.0 mL を加える (20 ppm 以下)。

(4) ヒ素 本品 1.0 g をとり、第 3 法により検液を調製し、装置 B を用いる方法により、試験を行う (2 ppm 以下)。

イオウ含量 本品約 0.5 g を精密に量り、水 5 mL に溶かし、塩酸 1.5 mL を加え、水浴中で 1 時間加熱する。冷後、水を加えて正確に 100 mL とし、試料溶液とする。試料溶液 10 mL を正確に量り、0.02 mol/L 塩化バリウム液 20 mL を正確に加え、メタノール 5 mL を加え、水浴中で 30 分間加熱する。冷後、水酸化ナトリウム試液を加えて中和し、

水 70 mL を加え、エチレンジアミン四酢酸二ナトリウム亜鉛四水和物溶液 (1 → 20) 10 mL、塩化アンモニウム試液 3 mL 及びアンモニア水 (28) 7 mL を加えた後、0.02 mol/L エチレンジアミン四酢酸二水素二ナトリウム液で滴定する (指示薬: エリオクロムブラック T 試液 5 滴)。ただし、滴定の終点は液の赤色が淡青色に変わるとする。同様の方法で空試験を行う。イオウ (S : 32.07) の量は、換算した乾燥物に対し、15.0 ~ 20.0 % である。

$$0.02 \text{ mol/L 塩化バリウム液 } 1 \text{ mL} = 0.6413 \text{ mg S}$$

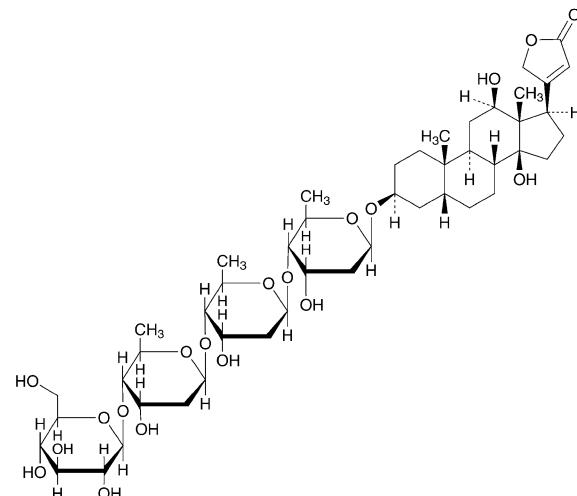
乾燥減量 10.0 % 以下 (0.5 g, 減圧、酸化リン (V), 60 °C, 4 時間)。

粘 度 本品の換算した乾燥物 1.5 g に対応する量を精密に量り、塩化ナトリウム溶液 (29 → 500) に溶かし、正確に 100 mL とし、試料溶液とする。試料溶液及び塩化ナトリウム溶液 (29 → 500) につき、25 ± 0.02 °C で粘度測定法により試験を行うとき、極限粘度は 0.020 ~ 0.032 である。

貯 法 容 器 気密容器。

デスラノシド

Deslanoside



C₄₇H₇₄O₁₉ : 943.08

3β-[O-β-D-Glucopyranosyl-(1→4)-O-2,6-dideoxy-β-D-ribo-hexopyranosyl-(1→4)-O-2,6-dideoxy-β-D-ribo-hexopyranosyl-(1→4)-2,6-dideoxy-β-D-ribo-hexopyranosyloxy]-12β,14-dihydroxy-5β,14β-card-20(22)-enolide [17598-65-1]

本品を乾燥したものは定量するとき、デスラノシド (C₄₇H₇₄O₁₉) 90.0 ~ 102.0 % を含む。

性 状 本品は無色～白色の結晶又は結晶性の粉末で、においはない。

本品は無水ピリジンに溶けやすく、メタノールにやや溶けにくく、エタノール (95) に溶けにくく、水又はジエチルエーテルにほとんど溶けない。

本品は吸湿性である。

確認試験 本品 1 mg を内径約 10 mm の小試験管にとり、塩化鉄(III)六水和物の酢酸(100)溶液(1→10000)1 mL に溶かし、硫酸 1 mL を穏やかに加えて二層とすると、境界面に褐色の輪帯を生じ、その界面に近い上層部は紫色を経て徐々に青色となり、次に全酢酸層は濃青色を経て青緑色となる。

純度試験

(1) 溶状 本品 0.020 g にエタノール(95) 10 mL 及び水 3 mL を加え、加温して溶かし、冷後水を加えて 100 mL とした液は、無色澄明である。

(2) 類縁物質 本品 0.010 g をとり、メタノール 5 mL を正確に加えて溶かし、試料溶液とする。別にデスラノシド標準品 1.0 mg をとり、メタノール 5 mL を正確に加えて溶かし、標準溶液とする。これらの液につき、薄層クロマトグラフ法により試験を行う。試料溶液及び標準溶液 20 μL ずつを薄層クロマトグラフ用シリカゲルを用いて調製した薄層板にスポットする。次にジクロロメタン/メタノール/水混液(84:15:1)を展開溶媒として約 13 cm 展開した後、薄層板を風乾する。これに希硫酸を均等に噴霧した後、110 °C で 10 分間加熱するとき、試料溶液から得た主スポット以外のスポットは、標準溶液から得たスポットより大きくなく、かつ濃くない。

旋光度 $[\alpha]_D^{20} : +6.5 \sim +8.5^\circ$ (乾燥後、0.5 g、無水ピリジン、25 mL、100 mm)。

乾燥減量 8.0 % 以下 (0.5 g、減圧、酸化リン(V)、60 °C、4 時間)。

強熱残分 0.5 % 以下 (0.1 g)。

定量法 本品及びデスラノシド標準品を乾燥し、その約 0.012 g ずつを精密に量り、それぞれをメタノール 20 mL に溶かし、水を加えて正確に 100 mL とし、試料溶液及び標準溶液とする。試料溶液及び標準溶液 5 mL ずつを正確に量り、それぞれを遮光した 25 mL のメスフラスコに入れ、2,4,6-トリニトロフェノール試液 5 mL 及び水酸化ナトリウム溶液(1→10)0.5 mL ずつを加えてよく振り混ぜた後、薄めたメタノール(1→4)を加えて 25 mL とし、18 ~ 22 °C で 25 分間放置する。これらの液につき、薄めたメタノール(1→5)5 mL を用いて同様に操作して得た液を対照とし、紫外可視吸光度測定法により試験を行う。試料溶液及び標準溶液から得たそれぞれの液の波長 485 nm における吸光度 A_T 及び A_s を測定する。

$$\text{デスラノシド (C}_{47}\text{H}_{74}\text{O}_{19}) \text{の量 (mg)} \\ = \text{デスラノシド標準品の量 (mg)} \times \frac{A_T}{A_s}$$

貯法 容器 気密容器。

デスラノシド注射液

Deslanoside Injection

本品は水性の注射剤で、定量するとき、表示量の 90 ~ 110 % に対応するデスラノシド(C₄₇H₇₄O₁₉: 943.08)を含む。

製法 本品は「デスラノシド」をとり、10 vol% エタノールに溶かし、注射剤の製法により製する。本品は「グリセリン」を加えることができる。ただし、本品は 10 vol% エタ

ノールの代わりに「エタノール」及び「注射用水」適量を用いて製することができます。

性状 本品は無色澄明の液である。

pH: 5.0 ~ 7.0

確認試験

(1) 本品の表示量に従い「デスラノシド」2 mg に対応する容量を分液漏斗にとり、この液 1 mL につき塩化ナトリウムを 0.2 g の割合で加え、クロロホルム 10 mL ずつで 3 回抽出する。全クロロホルム抽出液を合わせ、均一に混和する。この液 15 mL をとり、減圧でクロロホルムを留去し、残留物につき、「デスラノシド」の確認試験を準用する。

(2) (1) の残りのクロロホルム抽出液につき、減圧でクロロホルムを留去し、残留物をメタノール 5 mL に溶かし、試料溶液とする。別にデスラノシド標準品 1 mg をメタノール 5 mL に溶かし、標準溶液とする。これらの液につき、薄層クロマトグラフ法により試験を行う。試料溶液及び標準溶液 20 μL ずつを薄層クロマトグラフ用シリカゲルを用いて調製した薄層板にスポットする。次にジクロロメタン/メタノール/水混液(84:15:1)を展開溶媒として約 13 cm 展開した後、薄層板を風乾する。これに希硫酸を均等に噴霧し、110 °C で 10 分間加熱するとき、試料溶液及び標準溶液から得たスポットは、黒色を呈し、それらの R_f 値は等しい。

定量法 本品のデスラノシド(C₄₇H₇₄O₁₉)約 3 mg に対応する容量を正確に量り、メタノール 5 mL 及び水を加えて 25 mL とし、試料溶液とする。以下「デスラノシド」の定量法を準用する。

$$\text{デスラノシド (C}_{47}\text{H}_{74}\text{O}_{19}) \text{の量 (mg)} \\ = \text{デスラノシド標準品の量 (mg)} \times \frac{A_T}{A_s} \times \frac{1}{4}$$

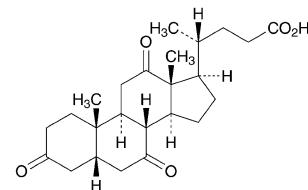
貯法

保存条件 遮光して保存する。

容器 密封容器。

デヒドロコール酸

Dehydrocholic Acid



C₂₄H₃₄O₆ : 402.52

3,7,12-Trioxo-5β-cholan-24-oic acid [81-23-2]

本品を乾燥したものは定量するとき、デヒドロコール酸(C₂₄H₃₄O₆)98.5 % 以上を含む。

性状 本品は白色の結晶性の粉末で、においはなく、味は苦い。

本品は 1,4-ジオキサンにやや溶けにくく、エタノール(95)に溶けにくく、水又はジエチルエーテルにほとんど溶けない。